

滝の原便り

社会福祉法人西仁会 広報誌

〒320-0851 宇都宮市鶴田町3381

TEL 028-632-7577



日米のアウトロー・ヒーローにおける「正義」の構造

武力によるベネズエラ大統領拉致という、現実とは思えない事件で幕が開いた令和八年ですが、この先どのような波乱が待ち受けているのか心配ですね。トランプ大統領の行動は日本人には理解できないことばかりですが、西部劇のヒーローだと思つたと納得できる論説がありましたのでご紹介いたします。以下引用です。

映画という虚構の中で、観客は「正義」が執行される瞬間にカタルシスを覚える。「弱きを助け強きを挫く」勸善懲惡の図式は洋の東西を問わず共通するが、その執行者たるヒーローの性格と、彼らを突き動かす行動原理には、日米の文化的な土壌の違いに根差した決定的な違いがある。

まず、西部劇のヒーローにおける正義の実現方法を見てみよう。ジョン・ウエインやゲイリー・キューパー、あるいはクリント・イーストウッドが演じてきたガンマンたちは、基本的に「よそ者」である。彼らは荒野からふらりと現れ、無法者に支配された町を解放し、そしてまた荒野へと去っていく。(無法者の左派政権に支配されたベネズエラ国民を解放するヒーローが「よそ者」のトランプというわけです。)

西部劇のヒーローの性格を決定づけているのは、徹底した「個人主義」と「自律」である。彼らは保安官という職務にある場合ですら、組織の論理よりも個人の倫理観やスキル(早撃ち)を頼りに戦う。彼らが悪を討つのは、それが神に誓った普遍的な正義だから

であり、あるいはコミュニティの秩序(法と文明)を守るための実利的な必要性からだ。彼らにとつて暴力は、平和な社会を建設するための「手段」である。

一方、日本の任侠映画のヒーローは、全く異なる相貌を持っている。彼らは決して自由な個人ではない。彼らは「組」という疑似家族的な組織の一員であり、親分と子分、あるいは兄弟分という厳格な「縦社会」の網の目の中に生きている。

任侠映画における正義は、「義理と人情」の葛藤の果てに現れる。ヒーローは当初、理不尽な悪徳ヤクザや腐敗した権力からの圧力をひたすら耐え忍ぶ。この「我慢」のプロセスこそが、日本のヒーローの最大の特徴である。

そして、堪忍袋の緒が切れた時、彼らは「死んでのれんを守る」ために、単身で敵地へと殴り込みをかける。ここでの暴力は、未来を建設するための手段ではなく、汚された名誉や踏みこじられた人情を回復するための「儀式」としての側面が強い。彼らが実現する正義は、普遍的な法ではなく、限られた人間関係の調和(仁義)である。その結果、ヒーローには「死」あるいは「長い懲役」という社会的抹殺が待っている。彼らは「滅びの美学」を体現する存在なのである。

アメリカの西部劇には、広大な未開拓地において己の身と財産を守るのは自分自身であるという自己責任論、そして法や正義は個人が勝ち取るものであるという思想が根底にある。ゆえに、ヒーローは誰にも依存せず、卓越した個人の力で状況を打破する「自立した男」でなければならない。絶対

善悪の二元論に支えられ、悪を滅ぼすことに躊躇いはない。

一方、日本のヤクザ映画の背景にあるのは、「ムラ社会」的な共同体意識と儒教的な道徳観、そして仏教的な無常観の混交である。任侠映画のヒーローが魅力的であるのは、彼が単に強いからではなく、誰よりも深く「他者への想い(情)」と「集団への忠誠(義)」に縛られているからだ。

観客は、しがらみの中で身動きが取れなくなっているヒーローに、日本社会特有の抑圧された日常を重ね合わせる。だからこそ、そのしがらみを全て断ち切って(あるいはしがらみのために命を捨てて)、ドスを抜く瞬間に、強烈な悲劇性とカタルシスが生まれるのである。ここでの正義の実現は、社会的な解決ではなく、情緒的な納得、すなわち「散り際の美しさ」へと昇華される。西洋のヒーローが「生き残る」ことで正義を証明するのに対し、日本のヒーローは「死ぬ(あるいは破壊する)」ことによつて、その純粋性を証明するのである。

ドスと拳銃、着流しとカウボーイハットという意匠の違い以上に、そのプロセスにおいて、一方は個人の勝利を謳い、もう一方は共同体のための自己消滅を美化する。この対比こそが、両ジャンルをそれぞれの文化圏における国民的叙事詩たらしめている最大の要因であろう。(引用終わり)

いづれにしてもベネズエラの石油はアメリカ(主にトランプさんのお友達)の物になり、巨万の富がアメリカに流れ込むことになりました。めでたしめでたし。

ファミリー滝の原



フラダンス 11月30日
可憐なフラガール達が、常夏の空気をお届けします。
ゆったりとしたリズムにつられて、体も動いてしまいます。



寿司御膳

11月2日



焼立て餃子

11月13日



富士見地域文化祭 11月1日
皆さんの作品を見に、文化祭へ出かけました。
今年はボランティアの方々に似顔絵を描いていただき、素敵なお出になりました。



新年祝賀会

1月1日



クリスマスイブ 12月24日
サンタさん達がクリスマスをお祝いでます。
今年もたくさんさんの笑顔を届けました。



施設デパート 12月21日
一日限りのデパート、開店です。
色とりどりの洋服に囲まれて、楽しくショッピング。
お目当ての物は見つかったでしょうか？

通所リハビリテーション

〈体操とレクリエーション〉
体操の後、ダーツをしました。何種類か行っているレクでは、それぞれの投げの動きなども異なります。楽しみながら身体を動かすこともできて、さらにダーツは足し算で得点を計算します。
点数の幅も広いので、脳トレにもなっているようです。

〈絵馬〉
みんなで絵馬を作って飾りました。今年は何んな年になるでしょう。絵馬は風にあおられ、なにやら、かたかたと言っているようでした。
ことしも良い年になるといいねと。



〈壁の飾り〉

完成までとてもわくわくした、クリスマスツリー。飾ったら、通る人みんなの注目の的でした。今年の干支はうま。金びかの2026もかっこいいです。今は、お花紙を丸めて、南天を作っています。鳥が喜んでしまいそうな南天の実ができそうですね。



〈昼食とおやつ〉の時間
ゆずのゼリーや、練切り、お饅頭。食べて美味しいを感じてみて。食事の時間が楽しい時間になるといいですね。クリスマスにはおいしいランチを食べました。いつものサンタとトナカイが寒さに負けないようにとプレゼントを持ってきました。



滝の原苑

〈十三夜昼食会・お茶会〉 11月2日(日)
 十三夜昼食会・お茶会を開催しました。
 昼食会のメニューは、月見ハンバーグ、
 さつま芋のバター煮、スープ。ハンバーグは
 人気メニューの一つであり、皆さん大変喜
 ばれておりました。
 15:00のおやつは、「うさぎプリン」でした。



〈運動会〉 11月19日(水) 運動会を開催しました。
 今年の競技は、玉入れ・応援合戦・よさこいソーラ・
 パン食い競争でした。
 白熱した戦いではありませんでしたが、競技だけでは勝負がつかず、最終決戦は赤・白団長によるじゃんけん対決！今年の戦いを制したのは「赤組」でした。
 昼食は、サンドイッチ弁当を楽しんで頂きました。



〈もちつき会〉 12月17日(金) もちつき会を開催致しました。今年もたくさんご利用者に参加して頂き、楽しいひと時を過ごしました。もちろん、昼食はつきたてのおもち。やはり、「あんこ餅」が一番の人気です。



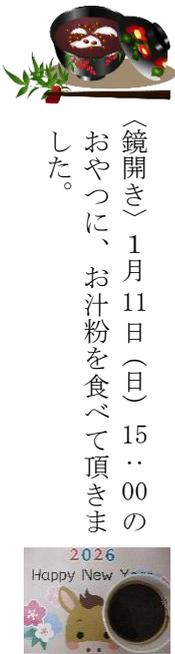
〈クリスマス昼食会〉 12月25日(水) 昼食時にクリスマスランチを楽しんで頂きました。
 今年のメニューは、チキンライス、冬野菜のクリーム煮、サラダ、オニオンスープ、デザートでした。
 午後のクリスマス会では、職員のギター演奏に合わせ、クリスマスソングを大合唱し、サンタさんよりプレゼントを頂きました。



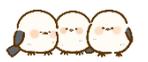
〈新年祝賀会〉 1月1日(水) 昼食時に新年祝賀会を開催しました。
 おせち料理を食べながら楽しいひと時を過ごされました。午後は、かるたやトランプ、福笑いなどのレクリエーションを楽しまれました。



〈鏡開き〉 1月11日(日) 15:00のおやつに、お汁粉を食べて頂きました。



ケアハウス滝の原苑



餅つき、移動販売、クリスマスランチ
 そして新年祝賀会

餅つき 12月17日
 特養の餅つきに数名招待され、力強く餅をついてきました。



移動販売 12月23日
 市の移動販売が開催されました。おいしいお菓子、果物等盛り沢山の中から楽しそうに皆様購入されました。
 毎週火曜日音楽とともにやってきます。



クリスマスランチ 12月25日
 クリスマスの豪華なランチです。チキンライスにケーキ・・・皆様大喜びで頬張っていました。クリスマスプレゼントを傍らに。



新年祝賀会 1月1日
 令和8年の幕開け。おいしいおせち料理に舌鼓しながら午年は元気に走りま



ご存知ですか「日本最大の円墳富雄丸山古墳について」

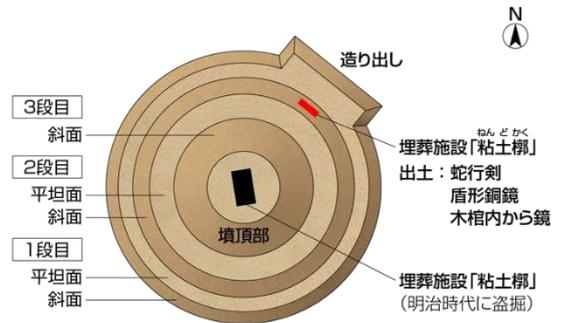
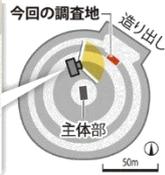
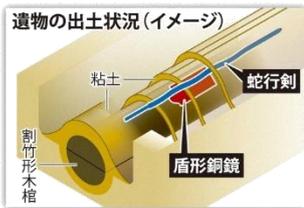
我が国の歴史には「謎の四世紀」と呼ばれる全く記述のない時代があることは以前(2025年2月号)にも取り上げたことがあります。今回は、呪術で倭国を治めていた邪馬台国女王・卑弥呼の時代(3世紀)から、武力で統治するヤマト王権の時代(5世紀)へどのように移ったのか、その謎を解く鍵が隠されているともいわれている奈良市にある「富雄丸山古墳(とみおまるやま)」を見てみましょう。

富雄丸山古墳は4世紀後半の築造とされ、2017年奈良市教委第1次調査で日本最大の円墳(直径約109m・高さ約14m)であることが分かりました。墳丘は三段構造で、各段のテラス(平坦な)部分の幅は最大約9m、北東部には円墳から突き出た方形の「造り出し」があります。造り出しは被葬者の墓前祭祀などに使用されたと推測されていますが、その実態は明白ではありません。大きさは幅約45m、長さ約25m、類例のない3段構造となっています。最上段までの高さは約5mあります。

この古墳が一躍脚光を浴びたのが2023(令和5)年1月25日、第6次調査で国内最大の「蛇行剣」と世界に類例のない「盾形銅鏡」出土の発表でした。発見場所は「造り出し」の部分です。そこに残存する埋葬施設「粘土槨(ねんどかく)」を確認する過程で、木棺を覆う粘土の中から蛇行剣と盾形銅鏡が見つかったのです。2024年2月(第7次調査)には極めて保存状態のよい木棺が出土し、そこから副葬品として中国からもたらされた3枚の銅鏡と壺(つぼ)が見つかりました。木棺の内部は3区画に分かれ、副葬品は当時の配置を保ち古墳時代の葬送儀礼や棺の構造を解明するうえで重要な手がかりになると考えられています。

この古墳の墳頂部は明治時代に盗掘されています。その後の調査で、そこにはより大きな埋葬施設(粘土槨)の痕跡が確認されています。造り出しの被葬者とはどのような関係だったのでしょうか。また、造り出しから出土した副葬品(巨大な剣や盾形銅鏡)は誰に何のために埋葬されたのでしょうか。そして何よりもこの古墳の被葬者は誰なのでしょう。

ヤマト王権の権力が増大する4世紀、その象徴である前方後円墳の造営という時代背景から王権とは距離を置く豪族の墓という考えもある一方、大王の古墳でも出土しないような副葬品からヤマト王権に近い人物という考えもあります。また、日本の古代史上特筆すべき実力者で、女王卑弥呼と倭の五王をつなぐ人物という考えもあるかも知れません。これらが明らかになるには今後の調査検討を待たねばなりません。早く知りたいですね。



編集雑記

新しい年も1か月が過ぎてしまいました。昨年2025年の「今年の漢字」に選ばれた「熊(クマ)」、今頃はぐっすりお休みのはずなのですが、東北地方を中心にクマの目撃や出没が相次いでいます。秋にたっぷり脂肪を蓄え、冬眠(11月中旬〜12月末頃)に入ったクマの目覚めは通常3月下旬ころなのですが、この時期(真冬)のクマの出没は、クマの生息数が増え人里近くで冬眠するクマが増えていることや、親熊が駆除されたことで冬眠方法を知らない子グマが出てきていることなども背景にあるようです。今年は昨年のようなクマによる被害が発生しないよう万全の対策を講じて欲しいですね。

さて、今年2026年(令和8)は、昭和元年(1926年12月25日)から数えて満100年を迎えます。昭和は1989年1月7日までの62年と14日ですが、その間、世界恐慌、満州事変、太平洋戦争、戦後の民主化・復興、高度成長、バブル経済など、いろいろなことがありました。248ある元号の中で最も長い時代ですので、生まれた年代によっても、昭和という時代の印象はさまざまかも知れませんね。

昨年10月、日本で初の女性の首相(高市早苗氏)が誕生しましたが、女性が政治に参加できるようになったのも、昭和の時代です。連合国占領期の、1945(昭和20)年ですので、まだ80年ほど前のことです。日本に民主化や男女平等をもたらした連合国の中心・米国より早く女性の国家リーダーが誕生したことになります。国民の期待が高まるのも頷けますよね。

その高市首相、1月23日召集の国会の冒頭で衆議院解散を表明。1月27日公示、2月8日の投票。解散から投票日まで戦後最短の16日間の選挙と相成りました。前回の衆議院選挙から1年3か月、選挙に掛かる費用は約700億円。この電撃的な解散に疑問を呈する声も少なくはありません。どんな選挙結果になるのでしょうか。いずれにしても選挙後の内閣には物価高対策はじめ、山積している政策課題の実現に向け、「働いて・働いて・働いて・働いて」欲しいですね。

まだまだ寒さは続きます。ご自愛ください。次号は5月1日発行予定です。